

令和2年度分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和2年度分について、輸出額は「自動車」、「自動車の部分品」などが減少したことから、対前年度比13.3%の減少となった。また、輸入額は「原粗油」、「液化天然ガス」などが減少したことから、同10.8%の減少となった。

その結果、差引額は6兆1,103億円（同15.0%の減少）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年度比による
また、★印は全ての年度を通じて過去最高を示す（1979年度以降のデータを基礎として比較）

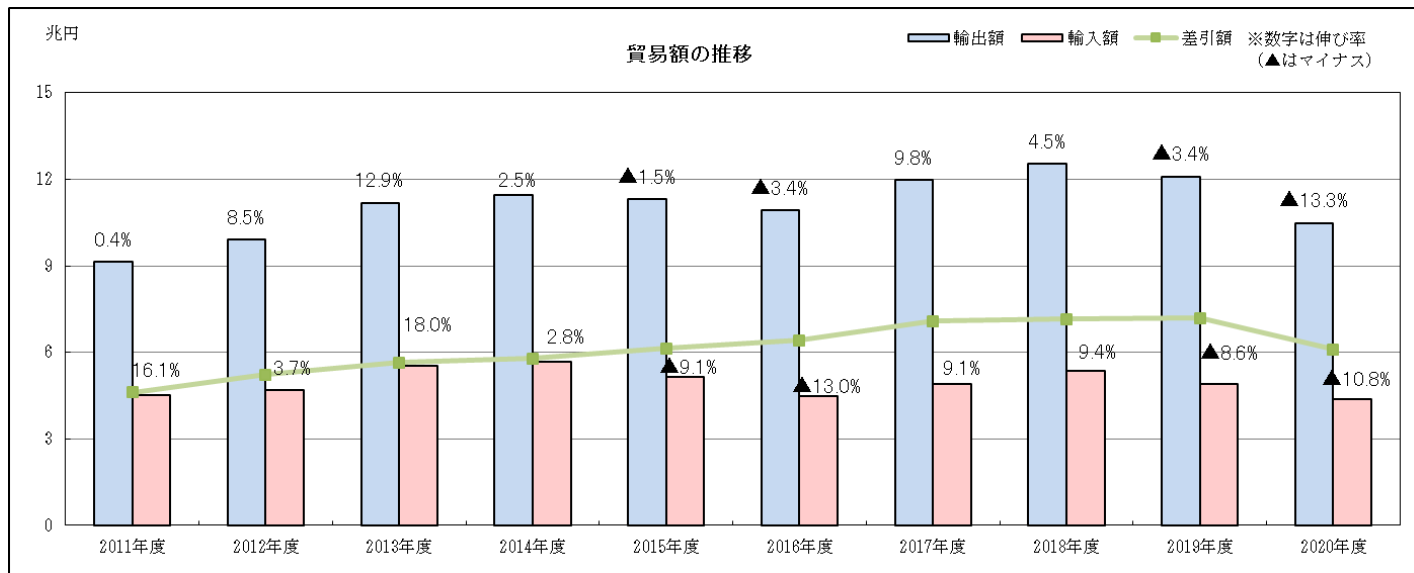
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	10兆4,876億円	▲13.3%	4兆3,773億円	▲10.8%	6兆1,103億円	▲15.0%
	2年連続の減少		2年連続の減少		9年ぶりの減少	
管内（名港シェア）	16兆3,349億円（64.2%）		7兆9,965億円（54.7%）		8兆3,385億円（—）	
全国（名港シェア）	69兆4,873億円（15.1%）		68兆1,803億円（6.4%）		1兆3,070億円（—）	

注) 名古屋港における輸出額は、平成23年度以降 10年連続 全国港別（空港を含む）第1位
注) 名古屋港における差引額は、平成10年度以降 23年連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

	概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出減少	(1) 自動車	2兆5,056億円	▲22.0%	▲5.8	4年ぶりの減少
	(2) 自動車の部分品	1兆7,636億円	▲12.4%	▲2.1	2年連続の減少
輸入減少	(1) 原粗油	1,668億円	▲41.8%	▲2.4	3年ぶりの減少
	(2) 液化天然ガス	2,987億円	▲19.3%	▲1.5	2年連続の減少



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の蔵置場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。